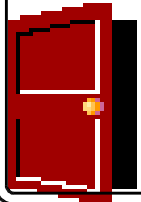


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



# 読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年12月12日 文責 渡邊

**令和4年最後の『読書活動への扉を開く』です！  
お読みいただきありがとうございました！  
来年(令和5年)も、よろしくお願いします。**

令和4年4月14日(木)に記念すべき第1号を発行しました。この読書通信『読書活動への扉を開く』を発行するにあたり、前日のPTA総会で次のような話をさせていただきました。

桑村小学校は、素晴らしい学習環境にあります。自然が豊かで、様々な体験活動ができるからです。子供たちは、その体験活動を通し、五感が育てられます。それをここで終わりにしてしまうのはもったいないと思います。五感が鍛えられた子供たちは読書を行うことで、そこでもたくさんの経験を楽しむのではないのでしょうか。自分の経験を読書の世界へとつなげ、たくさんの「想像」と「創造」を育成していくのです。子供の有する可能性は無限です。それをたくさん引き出してあげたいと考えます。

最後に、お願いです。この「読書活動への扉を開く」は、学校便りとは異なり、保護者の皆様方と双方向的なやり取りができればと思います。そこで、感じたことを自由に記述し、お子さんを通して校長までお知らせください。

お忙しい保護者の皆様方ですので、できる範囲で協力いただけたら嬉しいです。併せて、紙面にて紹介させていただくことがあるかもしれません。よろしくお願いします。

(令和4年度PTA総会校長挨拶より抜粋)



この読書通信は、これまで42号発行し、今回が43号目となります。

保護者の皆様方からは、貴重な感想をたくさんお寄せいただきました。そこで、創刊号に寄せていただいた感想や意見の中で、これまで紹介できなかったご意見を紹介いたします。

「読書活動の扉を開く」(4月14日号を読んで)

私も小さいときから本が読みたくて、本を見たりするのですが読んでも理解できないのです。子供も一緒なんです。本を読んでいる子いいなと思っていました。自分もたくさんたくさん読みたいのです。もしよければ、目で楽しめる本、絵本みたいな本があったらいいなと思いました。こんな親子ですがよろしくお願いします。

(4年生保護者)

「読書活動の扉を開く」(4月14日号を読んで)

子供がゲームをやり始めてから、寝る前の読み聞かせが減っていき、今ではその習慣もなくなっています。高学年になると絵本では物足りないし、長文だと飽きてしまったりと、読み聞かせにちょうどよい本が分かりません。PTA総会での校長先生の読書に対する熱い思いが伝わり、子供と一緒に本を読む時間を作りたいなと思いました。(5年生保護者)

「読書活動の扉を開く」（4月14日号を読んで）

『読書活動への扉を開く』を読ませていただきました。普段、調べ事をする時にパソコンやスマホを使っている人が大半だと思うのですが、世の中が便利になった分、文字離れが進んでいる気がします。文章を読んで理解して、自分なりの意見を書き出す作業や相手の話を最後までよく聞き、背景にある映像を思い浮かべる、全て「想像」と「創造」につながっていくと思います。

我が家では毎日、寝る前に必ず読み聞かせをしています。一緒に図書館に行き、借りたい本を自分で選んでいる時の子供たちの目はキラキラ輝いています。ゲームやパソコンも子供たちはとても好きで、毎日遊んでいます。メディアに触れた分、外で思いきり遊ぶことを心がけています。まだまだ成長が著しいこの時期に、いろいろな体験をさせてあげたいと思っていますので、今後もいろいろな活動に参加していきたいと思っています。（3年生保護者）

「読書活動の扉を開く」（4月14日号を読んで）

保育園時代には、読み聞かせがほとんどできず、小学校の入学をきっかけに週1回の親子読書が始まり、最初は仕事も家事もありヘトヘトで面倒くさいと思っていましたが、息子とのコミュニケーションの一つとなり、毎週何を読むのかが楽しみになりました。母親だけでなく父親が読む日があったりします。図書館や書店に行くことも多くなり、多くの本に出会うこともでき、「この本、学校にもあるよ！」と親子の会話も広がっています。絵本がまだまだ中心ですが、学校に入学してからは本が好きなんだと、新たな一面を見つけることができました。読み聞かせのおかげか音読を楽しくやっています。（2年生保護者）

創刊号に対し、保護者の皆様方からはたくさんの声が寄せられました。なんと第1学年から第6学年まで合わせて13件もご意見をいただくことができ、とても嬉しかったことを今でも覚えています。そして、その感動がこれまでの発行につながったように思えます。来年もともに読書活動を推進していきましょう！よろしくお祈りします。

## 最後に大切な

# お知らせ

です

先日、長年にわたり、本校児童に対し、自作の紙芝居で読み聞かせを行い、豊かな感性の育成にご尽力いただいた「ふうせんかづら」の代表の方から、「このたび本年度をもって読み聞かせの協力を終了させていただきたい」という申し出がありました。

この話を聞いたとき、とても寂しい思いがこみ上げてきました。長い間、本校の教育活動にご協力いただいた

「ふうせんかづら」の皆様とお別れしなければならないからです。とても温かな紙芝居の絵、優しい語り口と眼差し、ときには歌声までも披露してくださいました。その一つ一つの場面が思い出されます。

「できることなら、桑村小学校でずっと続けられたらいいのですが…」「すてきな子供たちと出会えて幸せをいただきました。」という代表の言葉に、胸がとても熱くなりました。令和5年2月9日(木)が、「ふうせんかづら」の皆様による紙芝居の最終日です。思い出に残る「読み聞かせ」会をみんなとともに創り上げていきたいと思っています。



【ふうせんかづらの皆さんの紙芝居】